

平成2年度作況一覽

秋播小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれいしょ	てんさい
不良	平年並	平年並	不良	やや良	良

I. 気象概況

平成元年9月から平成2年10月までの概況は次のとおりである。

平成元年9月：

気温は上旬が高かった。降水量は上旬が多く、日照時間は上、中旬が少なかった。

10月：

気温は上旬が低かったが、中、下旬は高かった。降水量は上旬が多かった。日照時間は平年並であった。

11月：

気温は総じて高めに経過し、降水量は上旬が多く、他は少なかった。日照時間はほぼ平年並であった。

12月：

気温は上旬が高く、中旬がやや低かった。降水量は月を通してかなり多かった。日照時間は中旬を除いてやや多かった。根雪始は12月8日で平年より4日遅かった。

平成2年1月：

気温は上旬は平年並、中旬はやや低く、下旬はかなり低かった。降水量は上、中旬は多く、下旬は平年並、日照時間は月を通して多かった。

2月：

気温は高く、特に中、下旬はかなり高かった。降水量は中旬がやや多めのほかはやや少なく、日照時間は平年並からやや多めであった。

3月：

引き続き気温は高く経過した。降水量は中旬が平年並で他はやや少なかった。日照時間もかなり多く、根雪終は3月23日で平年より16日も早く、積雪期間も105日と平年より22日も短かった。

4月：

気温は上、中旬がやや高く、下旬は平年並であった。降水量は上旬はやや多く、中旬は少なかったが、下旬は2日間で150mmを越す降雨があり多くなった。日照時間は中旬に多かったほかは平年並で、耕鋤始は4月16日と平年より11日早かった。

5月：

気温は上旬は平年並、中旬はやや高かった。降水量は上旬にやや少なく、中旬は平年並、日照時間は上旬にやや多く、中旬は平年並であった。

6月：

気温は上旬は平年並、中旬と下旬はやや高かった。降水量は中旬が多かったほかは少なく、日照時間も平年並からやや少なめであった。

7月：

気温は月を通してほぼ平年並に経過した。降水量は上旬にやや多めであったが、中、下旬はやや少なめから平年並であった。日照時間は中旬に非常に多かった他はやや少なめから平年並であった。

8月：

気温は上、中旬は平年並であったが下旬はやや高かった。降水量は上旬、下旬は少なかったが、中旬は8月11日から15日の間に90mmの降雨があり多かった。日照時間は上、下旬に多く、中旬には非常に少なかった。

9月：

気温は上旬が高かった。降水量は上旬が少なく、中、下旬は多かった。日照時間は中旬に非常に少なかったが、他は多かった。

10月：

気温は上旬は平年並、中、下旬は非常に高かった。月を通して降水量は少なく、日照時間は多かった。

以上、農耕期間(4月～10月)の気象を要約すると、積算平均気温は3274℃で平年(3021℃)より253℃高かった。降水量は671mmで平年(617mm)より55mm多かったが、7月中旬から8月上旬までの合計は38mmで平年の38%であった。日照時間は1452時間で平年(1256時間)より195時間多かった。

季節表

年次	根雪始 (元年.月.日)	根雪終 (月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月.日)	耕鋤始 (月.日)	晩霜 (月.日)	初霜 (月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (月.日)
本年	12. 8	3.23	105	4. 6	4.16	4.20	10.29	192	11.1
平年	12. 3	4. 8	127	4.18	4.27	5. 2	10.15	164	10.3
比較	5	△16	△22	△12	△11	△12	14	28	11

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

農耕期間の積算値

項目 期間		平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～ 10月	本年	3,274	4,321	2,160	671	1,452
	平年	3,021	4,084	1,946	617	1,256
	比較	253	237	214	54	196
5～ 9月	本年	2,720	3,430	1,999	433	1,034
	平年	2,568	3,310	1,818	467	929
	比較	152	120	181	△34	105

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

II. 平成2年度の作況

1. 秋播小麦 平成2年度の作況: 不良

事由: 播種日は平年より6日遅い9月19日である。播種翌日に十分な降雨があったので、出芽は良好であった。しかし、越冬前の生育は、播種が遅れたので、草丈が短いなど平年に比べやや劣った。根雪始は平年より4日遅れの12月8日である。冬期間の降雪量は概して多かったが、2月以降の暖冬で融雪が著しく進んだので、根雪終は平年より17日早い3月23日となった。紅色雪腐病および褐色雪腐病の発生がみられ、圃場の一部では多めの被害となった。融雪後の生育は、高温、少雨の天候から圃場が干ばつ傾向となったので、稈長および分げつ数が平年より劣り、そのまま小出来に推移した。そのため、出穂期は平年より6日早く、成熟期も平年より8日早まり生育が進んだが、子実収量は335～394kg/10aで平年対比が70%前後となった。ただし、本年の試験圃場は干ばつの著しい場所にあっていたのでその影響が大きく、付近農家の収量に比べても著しく劣る結果となった。この減収の要因は、千粒重がほぼ平年並であったことから、圃場の干ばつにより分げつ抑制された結果穂数が著しく減少したことによる。なお、子実の品質(等級)は平年並であった。

以上により、平成2年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	ホロシリコムギ			タクネコムギ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(平1.月.日)	9.19	9.13	6	9.19	9.13	6	
出芽期(平1.月.日)	9.26	9.22	4	9.26	9.21	5	
出穂期(月.日)	6. 5	6.11	△6	5.28	6. 3	△6	
成熟期(月.日)	7.17	7.25	△8	7.10	7.18	△8	
草丈 (cm)	平1.10月20日	17.7	18.4	△0.7	18.0	18.2	△0.2
	5月20日	48	45	3	50	44	6
	6月20日	100	101	△1	96	103	7
茎数 (本/㎡)	5月20日	1108	1040	68	1049	1047	2
	6月20日	532	591	△59	608	703	△95
成熟期に おける	稈長(cm)	87	97	△10	83	92	△9
	穂長(cm)	8.5	9.1	△0.6	7.6	7.8	△0.2
	穂数(本/㎡)	469	546	△77	547	644	△97
子実重(kg/10a)	394	556	△162	335	499	△164	
リットル重(g)	785	772	13	792	795	△3	
千粒重(g)	46.9	45.3	1.6	40.7	41.6	△0.9	
品質(等級)	1	2上	—	2中	1	—	
子実重平年対比(%)	71	100	△29	67	100	△33	

注) 平年値は前7か年中、昭和61年、平成元年(各収穫年度)を除く5か年平均。

2. 大豆 平成2年度の作況: 平年並

事由: 播種期は5月18日で、平年より2日早かった。5月下旬から6月上旬前半にかけて圃場は干ばつ傾向となったので出芽が不揃いとなり、出芽期も平年並になった。出芽後6月中旬から7月中旬にかけて気温が高めに推移したため生育は著しく進み、開花期は平年より1週間程度早まった。7月下旬も干ばつ気味に経過したが、8月中旬には降雨に恵まれたので生育は比較的順調であった。さらに8月下旬以降比較的高温に推移したため、着莢および登熟は順調に進み、「ユウヒメ」は平年より3日早く「ユウヅル」は平年より6日早く、各々成熟期に達した。成熟期における調査結果では、主莖長および主莖節数はほぼ平年並であったが、分枝数は平年を著しく上回った。子実収量は、「ユウヒメ」が296kg/10aおよび「ユウヅル」が297kg/10aで、平年対比は各々92%および103%となった。総体的にはほぼ平年並といえよう。収量構成要素についてみると、着莢数が多く百粒重も重かったが、一莢内粒数が減少したことにより、上記の収量となったことがわかる。なお、品質(等級)は平年より劣った。以上により、平成2年度の作況は平年並である。

品種名 項目/年次		ユウヒメ			ユウヅル		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.18	5.20	△2	5.18	5.20	△2
出芽期(月.日)		6.11	6.11	0	6.11	6.11	0
開花期(月.日)		7.22	7.29	△7	7.26	8.3	△8
成熟期(月.日)		10.6	10.9	△3	10.12	10.18	△6
主莖長 (cm)	6月20日	9.8	6.8	3.0	7.8	5.6	2.2
	7月20日	38.3	26.7	11.6	33.8	24.1	9.7
	8月20日	55.5	57.6	△2.1	64.0	69.7	△5.7
	9月20日	54.7	58.0	△3.3	64.7	71.3	△6.6
	成熟期	56.9	56.9	0.0	65.7	69.4	△3.7
主莖節数 (節)	6月20日	0.7	0.3	0.4	0.6	0.3	0.3
	7月20日	7.6	5.3	2.3	7.4	5.1	2.3
	8月20日	12.9	13.2	△0.3	15.5	15.1	0.4
	9月20日	13.1	13.4	△0.3	15.6	15.7	△0.1
	成熟期	12.7	13.2	△0.5	15.6	14.8	0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	5.5	1.9	3.6	3.6	1.2	2.4
	8月20日	6.3	7.0	△0.7	6.5	5.1	1.4
	9月20日	6.5	6.6	△0.1	7.0	4.8	2.2
	成熟期	7.3	6.0	1.3	7.1	4.5	2.6
着莢数 (莢/株)	9月20日	67.3	64.2	3.1	69.6	60.8	8.8
	成熟期	70.1	59.1	11.0	76.8	55.6	21.2
一莢内粒数(粒)		1.91	2.01	△0.10	1.83	1.84	△0.01
子実重(kg/10a)		296	323	△27	297	288	9
百粒重(g)		43.3	41.2	2.1	45.1	40.1	5.0
虫喰率(%)		0.1	0.4	△0.3	0.1	0.7	△0.6
品質(等級)		3下	3上	—	3下	2下	—
子実重平年対比(%)		92	100	△8	103	100	3

注) 平年値は前7か年中、昭和62年、63年を除く5か年平均。6月および7月の主莖節数は本葉数。

3. 小豆 平成2年度の作況: 平年並

事由: 播種期は平年より2日早い5月17日であった。その後の高温と適度な降雨により、出芽は良好で出芽期も約1週間早かった。初期生育は良好でその後の生育も進んだので、開花期は平年より9日早い7月19日であった。しかし、7月下旬から8月上旬は干ばつ気味に経過したので、主茎の伸長の抑制は著しく、主茎節数と分枝数も平年より少なく、そのため倒伏は全くみられなかった。その一方、着莢および登熟は比較的順調に進み、平年より8日早い8月31日に成熟期に達した。着莢数は平年よりやや少なく、粒大もやや小さいが、一莢内粒数が多いことが補償して、子実重は227kg/10aで平年対比99%となった。なお、子実の品質(等級)は粒揃いや色調がよかったので平年より優った。以上により、平成2年度の作況は平年並である。

品種名 項目/年次	エリモショウズ			
	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.17	5.19	△2	
出芽期(月.日)	6.3	6.11	△8	
開花期(月.日)	7.19	7.28	△9	
成熟期(月.日)	8.31	9.8	△8	
主茎長 (cm)	6月20日	4.8	3.3	1.5
	7月20日	14.8	14.4	0.4
	8月20日	28.1	44.4	△16.3
	成熟期	29.1	45.4	△16.3
主茎節数 (節)	6月20日	1.2	0.8	0.4
	7月20日	6.5	5.6	0.9
	8月20日	11.0	12.0	△1.0
	成熟期	10.9	11.8	△0.9
分枝数 (本/株)	7月20日	1.7	1.5	0.2
	8月20日	2.2	3.2	△1.0
	成熟期	1.8	2.8	△1.0
着莢数 (莢/株)	8月20日	35.2	32.6	2.6
	成熟期	37.1	39.9	△2.8
一莢内粒数(粒)	6.71	6.20	0.51	
子実重(kg/10a)	227	230	△3	
百粒重(g)	11.5	12.0	△0.5	
屑粒率(%)	1.4	2.1	△0.7	
品質(等級)	1	2中	—	
子実重平年対比(%)	99	100	△1	

注) 平年値は前6か年中、平成元年を除く5か年平均。6月および7月の主茎節数は本葉数で4年平均。

4. 菜豆 平成2年度の作況: 不良

事由: 播種は平年より2日早かった。播種後圃場が乾燥していたので出芽は不揃いとなった。しかし6月9日に降雨があり、その後ほぼ平年並に出芽期となった。出芽後の生育は、7月上旬まで高温、適湿に経過したので概して良好であり、開花期は平年より12日早かった。開花期以降8月10日まで干ばつ傾向に推移したため、開花後の生育は著しく抑制され、主茎の伸長、着莢が劣り、最終的には主茎長、主茎節数、着莢数いずれも平年を下回るようになった。成熟期は平年より5日早かった。子実収量は239kg/10aで平年対比85%となった。この減収の要因は、干ばつによる着莢数の減少によるものであり、百粒重が平年より重くなったことでも補償し得ていない。子実の品質(等級)は平年よりやや優つ以上により、平成2年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	改良早生大福			
	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.22	5.24	△2	
出芽期(月.日)	6.11	6.12	△1	
開花期(月.日)	7.6	7.18	△12	
成熟期(月.日)	8.31	9.5	△5	
主茎長 (cm)	6月20日	23.5	12.5	11
	7月20日	236	233	3
	8月20日	252	295	△43
	成熟期	251	292	△41
主茎節数 (節)	7月20日	16.6	17.6	△1.0
	8月20日	19.2	22.3	△3.1
	成熟期	20.3	23	△2.7
分枝数 (本/株)	7月20日	3.1	4.8	△1.7
	8月20日	3.1	3.7	△0.6
	成熟期	3.2	3.4	△0.2
着莢数 (莢/株)	8月20日	29.7	35.5	△5.8
	成熟期	30.7	39.7	△9.0
一莢内粒数(粒)	4.23	4.25	△0.02	
子実重(kg/10a)	239	282	△43	
百粒重(g)	69.7	65.2	4.5	
屑粒率(%)	3.4	4.7	△1.3	
品質(等級)	2	3	—	
子実重平年対比(%)	85	100	△15	

注) 平年値は前7か年中、昭和60年、61年を除く5か年平均。ただし、成熟期以外の主茎長・主茎節数・分枝数・着莢数および成熟期の主茎節数は欠測の昭和58年も除く4か年平均。

5. ばれいしょ 平成2年度の作況:やや良

事由:植付けは平年より5日早い5月1日に行った。地温がやや高めに経過したので、萌芽は著しく早まった。萌芽後の生育は、気温が高かったのでやや軟弱徒長気味であったが順調に進んだ。開花始は7~8日早かった。その後、比較的高温、少雨に推移したので生育は著しく進み、早生の「男爵薯」では平年より23日早い8月9日に、「農林1号」も平年より7日早い9月16日に各々枯凋期に達した。なお、「農林1号」には一部に二次生長が散見された。両品種とも、初期生育が優っていたことなどから、枯凋期が早まったにもかかわらず、比較的多収で上いも重の平年対比は102~104%となった。また、でん粉価が約1.5%高く、その結果でん粉重の平年対比は113~116%となった。以上により、平成2年度の作況はやや良である。

品種名 項目/年次	男爵薯			農林1号			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期(月.日)	5.1	5.6	△5	5.1	5.6	△5	
萌芽期(月.日)	5.23	6.2	△10	5.23	6.1	△9	
開花始(月.日)	6.21	6.29	△8	6.22	6.29	△7	
枯凋期(月.日)	8.9	9.1	△23	9.16	9.23	△7	
茎長 (cm)	6月20日	41	18	23	45	22	23
	7月20日	48	40	8	66	60	6
	8月20日	—	43	—	67	72	△5
茎数 (本/株)	6月20日	5.0	4.4	0.6	5.7	5.3	0.4
	7月20日	5.0	4.6	0.4	5.7	5.5	0.2
	8月20日	—	4.3	—	5.7	5.3	0.4
上いも重(kg/10a)	3,473	3,340	133	4,652	4,556	96	
でん粉価(%)	15.3	13.9	1.4	16.2	14.7	1.5	
でん粉重(kg/10a)	497	428	69	707	789	82	
上いも重平年対比(%)	104	100	4	102	100	2	
でん粉価平年対比(%)	110	100	10	110	100	10	
でん粉重平年対比(%)	116	100	16	113	100	13	

注) 平年値は前7か年中、昭和58年、平成元年を除く5か年平均。ただし「男爵薯」の開花始は不開花に終わった昭和60年も除く4か年平均。「上いも」は20g以上の塊茎である。

6. てんさい 平成2年度の作況:良

事由:播種は平年より2日早い4月4日である。発芽は順調で4月11日に発芽期に達した。移植期は5月8日で平年より2日遅かったが、移植後気温が高めに経過したので、活着は良好で、補植個体はほとんどなかった。活着後、5月下旬から6月下旬にかけての高温により、初期生育は著しく旺盛となり、7月下旬における根部の肥大は良好であった。その後、8月上旬の多照、少雨により、圃場が乾燥したので、生育は一次停滞した。しかし、8月中旬の多雨により圃場の乾燥状態が解消し、生育は順調に回復した。その後も比較的多照に経過したので、根部の肥大は良好で、10aあたり根重は8.64tで平年対比115%の多収となった。また、生育後期の高温による糖分蓄積の低下が懸念されたが、全般に良好な生育に経過したので、根中糖分も16.74%で平年を2%上回った。糖量は10aあたり1445kgで平年対比117%の多収であった。

以上により、平成2年度の作況は良である。

品種名(栽培法) 項目/年次		モノヒカリ(移植)		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		4.4	4.6	△2
移植期(月.日)		5.8	5.6	2
収穫期(月.日)		10.17	10.16	1
草丈 (cm)	5月20日	6.0	4.1	1.9
	6月20日	38.5	25.2	13.3
	7月20日	59.8	52.0	7.8
	8月20日	60.2	60.0	0.2
	9月20日	57.3	60.2	△2.9
	収穫期	55.9	60.9	△5.0
葉数 (枚)	5月20日	3.1	2.4	0.7
	6月20日	12.9	9.8	3.1
	7月20日	20.6	20.0	0.6
	8月20日	23.0	26.2	△3.2
	9月20日	26.3	29.2	△2.9
	収穫期	28.0	26.2	1.8
根周 (cm)	7月20日	24.3	22.5	1.8
	8月20日	33.8	31.5	2.3
	9月20日	38.2	36.2	2.0
	収穫期	39.7	38.5	1.2
茎葉重(t/10a)		4.28	5.78	△1.50
根重(t/10a)		8.64	7.52	1.12
根中糖分(%)		16.74	16.41	0.33
糖量(t/10a)		1,445	1,235	210
根重平年対比(%)		115	100	15
根中糖分平年対比(%)		102	100	2
糖量平年対比(%)		117	100	17

注)平年値は前7か年中、昭和62年、63年を除く5か年平均。